

49 ヴォランタリ・ホスピタルが拓く

地平 (一)

——セント・ジョージ病院の設立と発展——

柳 澤 波 香

青山学院大学・津田塾大学

セント・ジョージ病院 (St George's Hospital) は、一七三三年、ロンドンのセント・ジョージ教区の貧しく病める者のために、ロンドンで三番目のヴォランタリ・ホスピタルとして設立された。設立の契機は、イングランド初のヴォランタリ・ホスピタルであるウエストミンスター病院 (Westminster Hospital、一七一一年創設) の移転先をめぐる紛争にあった。当時、ウエストミンスター病院は、増大する患者のニーズに因應するために、移転を計画していたが、創設地に近い Castle Lane を支持したグループに対し、一部の病院理事や医師が、Hyde Park Corner への移転を主張した。

空気が清浄で、物資の調達にも便利であると考えたためであった。

セント・ジョージ病院は、Hyde Park Corner の レインズボロー伯爵の館を賃借し、三〇床で開院した。設立発起人は三五名、レインスボロー家と縁の深い Carey、法律家 Griffith、病院名の由来であるセント・ジョージ教区の牧師 Trebeck の他、Claudius Amyand、Ambrose Dickens、William Cheselden などの医師もいた。病院運営資金は発起人や篤志家の寄付金であった。設立当初の病院規則には、外来診療、入院日の曜日が規定されていた他、医師は治療の目的に適う最善の診察、診断、処方、規則に基づき行う旨が定められていた。病院のホールには、poor box という献金箱が置かれ、患者の義足の購入や、時には質に入った服を買い戻すことにも充てられた。

病院設立の発起人であった外科医 Amyand、Dickens、Cheselden は、優れた外科技術を有していたので、設立時より、セント・ジョージ病院における外科治療水準は他の病院よりも高く、この伝統は今日まで続く

言われる。近代外科学の父と称される John Hunter も Cheselden の下で学び、院内で死去するまで、病院医師として勤務した。心音、聴診の研究で知られる James Hope、内科医であり病理学者の Matthew Baillie にも長年勤務した。

症例の多く集まるヴォランタリ・ホスピタルでは、臨床医学が興隆し、現代の病院医療の原形が形成された。医学を志す者は名医の下で医学講習を受けたため、病院は医療機関でもあった。Thomas Addison, Edward Jenner, Astley Cooper, John Abernathy などもセント・ジョージ病院に学んだ。

一九世紀前半になると、入院、外来患者数が増大し、病院建物も老朽化したため、病院の建替が行われた。複数の建築家による設計案が慎重に審査された。建替の折に、患者に極力負担をかけないことも審査の重要なポイントであった。ナショナル・ギャラリー等の建築を行った William Wilkins の設計が選ばれ、新伽藍は一八三四年に完成した。病床数は三五〇床になった。

一九世紀後半に入ると、再び病床数が不足したため、

一八六九年、病院理事であった事業家 Atkinson Morley の遺言により、Wimbledon に回復期患者用の病院 (Atkinson Morley's Hospital) が創設された。これにより、セント・ジョージ病院は急性期の患者の診療に専念することが可能になった。

戦後も、セント・ジョージ病院は、NHS の病院として、ロンドン市民に質の高い医療を提供し、世界の医学をリードしてきたが、更なる発展のため、一九八〇年、ロンドン南部の Tooting へと移転した。二〇世紀末、英国医療制度改革に伴い、セント・ジョージ病院は、一〇余りの他の病院と St Georges Healthcare NHS Trust を形成することになった。

Wilkins が設計した壮麗な病院の建物は、病院が Tooting に移転した後、売却された。しかし、建物は取り壊されることなく、修復や内部の改装を経て、当時の外観を良くとどめたまま、現在はロンドン屈指の最高級ホテルとなっている。壁面には ST GEORGE'S HOSPITAL の刻字がはっきりと残されている。